



クロスワード

	2		1	A	B					
		D								
3					E					
2				C						
						A	B	C	D	E

ひらがなで書いてね!
ヒントはすべてパンフレット
なかにあるよ

こたえ

タテのカギ

1. [] どちゅう の途中だからこそ特別に守られる「子どもの権利」
2. 「めざすまちの姿」と「条例の前文【子どもの思い】」に共通して出てくるカタカナの言葉
3. 子ども・若者のみんなが、色々な場所と方法で、意見を言ったり [] したりした

ヨコのカギ

1. 困ったときに連絡できるところ
2. 「①いかなる理由でも差別されない」などの4つの一般原則が
定められているのは「子どもの [] 」

正解はこちゅら

こま 困ったときは連絡してね!

せたホツと (せたがやホット子どもサポート)

悩みがある、困ったとき、話をきいてほしいときは連絡してね。
ひみつ からら まも 秘密は必ず守るよ。

相談時間 月～金：午後1時～午後8時、土：午前10時～午後6時
(日曜、祝・休日、年末年始のぞく)

電話 フリーダイヤル 0120-810-293
(ほっとにきゅうさい)

会って、または手紙で
〒156-0051 世田谷区宮坂3-15-15
子ども・子育て総合センター3階 せたホツ あて

メール

みんなで
作ったよ!

このパンフレットは、子ども版パンフレット編集会議にて、子ども・若者
のみなさんと一緒に内容を考えたりイラストを描いたりして作りました。

発行:世田谷区子ども・若者部 子ども・若者支援課
計画担当 & 「子どもの権利」周知啓発プロジェクトチーム
〒154-8504 東京都世田谷区世田谷4-21-27 Tel03-5432-2528 FAX03-5432-3016
令和7年4月発行

せたがやく けんりじょうれい
世田谷区子どもの権利条例
せたがやく こ わかものそごうけいがく だい き
世田谷区子ども・若者総合計画(第3期)

子どもの権利 を守る

約束と作戦 が

できたよ!



せたがやく
世田谷区教育委員会



し
知ってた?

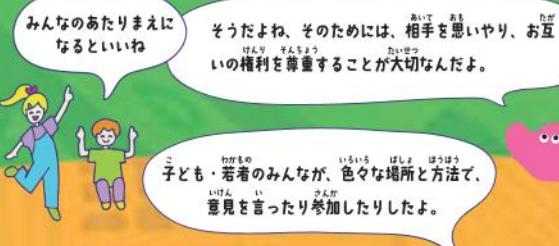
子どもには

子どもの権利 があるんだよ!

子どもには、人間としての権利だけじゃなく、成長の途中だからこそ特に守られる子どもの権利もあるんだよ。

全世界で共通の 子どもの権利条約の 4つの一般原則

- ① いかなる理由でも差別されない
- ② 子どもにとって最もよいことが何かを考えられる
- ③ 命を守られ成長・発達する
- ④ 自由に自分の意見や思いを表明する



これらはすべて、子どもの権利条約の4つの一般原則のひとつ④自由に自分の意見や思いを表明するだね!

めざすまちの姿

ひとり

えがお

じぶん

一人ひとりが笑顔で自分らしくチャレンジできるまち

世田谷区子どもの権利条例*

子どもの権利を守る 約束

子どもの権利条例は、子どもの権利を守るための世田谷区の大変な「約束」なんだ。区や大人は、

この約束を大切にして、
守っていくよ。

区や大人は、みんなの思いを
受けとめ、応えていきます！

条例の子どもの権利(一部)

- 自分らしくいられ、個性が尊重される権利
- 様々なことに挑戦して失敗できる権利

世田谷区子ども・若者総合計画(第3期)

子どもの権利を守る 作戦

計画は、「約束」を実現するための「作戦」だよ。
子ども・若者と大人と一緒に、これから10年をかけて、

すす
進めていこう！

ひとり
一人ひとりの
ことを、みんなで
支えあう

けいがく
計画の4つの原則

みんなと一緒に
地域社会をつくる

つくっていこう！

条例の前文【子どもの思い】

私たちちは、自分の意見や思いを受けとめてもらえたとき、喜びを感じます。

きれいな自然豊かな世田谷を守っていきたいです。
私たちの未来にもっと希望をもちたいです。

自分で様々な選択をして自分らしく生きたいです。
子ども同士が交流し、つながる機会を増やしたいです。
安心できる場所を増やしたいです。

自由に、やりたいことにチャレンジして、学びを深め、成長していきたいです。

大人に意見や思いを届けたいです。
こんな思いがかなう世田谷にしたいです。



条例には、ほかにもたくさん
子どもの権利が書いてあるよ！

● 心や身体が疲れた時に休憩することができる権利

● 意見や思いを様々な方法で表すことができる権利

計画の目標

子ども・若者が自分らしく幸せな今を生き、
明日からもよい日と思える社会を実現する

たと えばこんな作戦があるよ

- 子ども・若者が意見を表す機会や参加する機会を増やす
- 子どもの権利について、子どもと学校の先生などの大人にもっと学んでもらう
- 子ども・若者が参加できるイベントや体験の機会を増やす
- 子ども・若者が、ここでの悩みを相談できる場をつくる
- 障害がありたり、生活に困っている子ども・若者や、ひとり親の家庭を支援する

